

# 新しいあいちの健康福祉ビジョン（仮称）原案の概要

## 第1章 ビジョンの策定

### 1 これまでのあいちの健康福祉

「21世紀あいち福祉ビジョン」の推進

計画期間  
平成13年度～22年度

基本目標  
自立と自己実現を支える福祉

### 3 新たなビジョンの策定

「新しいあいちの健康福祉ビジョン（仮称）」

計画期間  
平成23年度～27年度

内容  
新たに医療分野を加え健康福祉全般を対象

## 2 これからの社会の動き

### 超高齢社会の到来

- ・平成27年には4人に1人が高齢者（平成22年は5人に1人）
- ・平成37年には75歳以上人口が倍増（平成22年：661千人 平成37年：1,164千人）

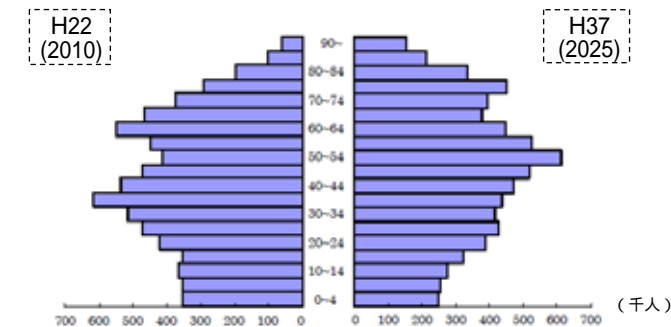
区分	愛知県全人口(千人)	年齢3区分別人口(千人)				高齢化率	
		0～14歳	15～64歳	65歳以上	うち75歳以上	(65歳以上の割合)	うち75歳以上
H22(2010)	7,417	1,079	4,833	1,505	661	20.2%	8.9%
H27(2015)	7,481	1,028	4,672	1,781	793	23.8%	10.6%
H37(2025)	7,444	887	4,594	1,963	1,164	26.4%	15.6%

資料：H22「あいちの人口（平成22年10月1日現在）」、H27・37「政策指針2010 - 2015」による推計

### 少子化と人口減少社会の到来

- ・平成21年合計特殊出生率は1.43（昭和46年は2.28）
- ・今後人口は減少に転じ、平成37年には生産年齢人口2.3人で高齢者1人を支える社会となる（平成22年は3.2人で1人）

本県の人口ピラミッド(男女計)



### 家庭の変化

高齢者のみの世帯やひとり親世帯の増加  
家庭・家族のつながりの希薄化

### 地域社会の変化

地域のつながりの希薄化  
NPOなどによる支え合い活動の活発化

### 健康福祉ニーズの多様化・複雑化

働き方・家族形態・価値観などの多様化によるニーズの多様化・複雑化

### 安心を支える社会システムへの信頼感の低下

医師不足により約2割の病院で診療制限  
毎年1,500人前後の県民が自殺  
新型インフルエンザのまん延  
生活保護受給者の増（10年間で2倍）  
年金など社会保障制度の持続可能性への不安

### 地方分権の進展

国・県・市町村の役割分担の見直し、市町村主体の健康福祉サービスの提供  
多様な主体の協働

## 第2章 基本とする考え方

### 1 基本理念

目指すべき健康福祉社会像のイメージを「みんなが地域で支え合いながら、安心して健やかに暮らすことのできる社会の実現」のように次のキーワードなどを用いて提示

安心、希望、尊厳、健やか、支え合い、共生、協働、地域で暮らす、生活の質の向上 等

### 2 基本とする視点

（各分野の取組に共通する留意点）

家庭の機能を支える  
地域全体で支え合う  
一人ひとりの生き方と可能性を尊重する  
予防・早期対応を重視する  
持続可能なシステムを構築する  
役割分担を明確化する

## 第3章 施策の方向

### 第1節 福祉

高齢者がいきいきと暮らせる社会へ  
子どもと子育てにやさしい社会へ  
障害のある人が安心して暮らせる地域社会へ

### 第2節 保健・医療

誰もが健康で長生きできる社会へ  
必要な医療が受けられる社会へ

### 第3節 地域

健康福祉の地域力が充実した社会へ

詳細は次頁以降に記載

## 第4章 ビジョンの推進

「健康福祉ビジョン推進本部」において進行管理を行い、進捗状況を公表

「圏域保健医療福祉推進会議」の活用等により地域の実情に応じて推進

社会情勢の変化等に対しては柔軟かつ的確に対応